

家政学科 カリキュラム (2019年度生用)

カリキュラム・ポリシー	教育課程の編成	1. 家政学の基本的知識・理解にかかわる専門基礎科目、家政学の専門的な資質・能力の育成にかかわる専門共通科目、「被服デザイン科学」「住空間」「生活プロデュース」のコース専門科目によって、各領域についての専門性を体系的に深める。 2. 講義形式、演習形式、実験・実習形式、卒業研究等様々な教育方法をとることで、理論的知識の教育と実践的な教育の両立を図る。 3. 教職課程を設置し、家庭科の全分野に強い中学校・高等学校の家庭科教員を養成する。 4. 家政学に関連する資格取得につながる授業科目を開設する。							
	学年毎	1回生	2回生	3回生	4回生	「卒業研究」を履修し、専門分野に関する研究に取り組み、学びの集大成とする。			
		基礎学力や情報処理能力などの習得	専門分野の基礎的な能力などの習得	専門分野のより深い知識や技能の習得	学びの集大成				
科目群毎	分野	1回生		2回生		3回生		4回生	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門基礎科目	家政学	家政学を学ぶ 家政学原論		フィールドワーク			家政学総合演習	卒業研究	
主として1回生に開講し、家政学の基本的な知識や、学習の基盤となる情報処理能力や実験・製作等の基礎技術を習得する。	情報		生活情報処理【高免必修】	生活統計学					
	家庭電気・機械						家庭電気・機械【高免必修】		
専門共通科目	食		調理学		基礎調理学実習【中高必修】				
各コースに縛られることなく家政学の各領域や情報等に関する科目を広い視点で学習し、現代的な生活問題を正しく捉え、解決のための視点や方法を習得する。	家庭科教育			家庭科指導法Ⅰ【中高必修】	家庭科指導法Ⅱ【中高必修】	(家庭科指導法Ⅲ) 【中免必修、高免選択】	(家庭科指導法Ⅳ) 【中免必修、高免選択】		
	生活デザイン			色彩論【中高選択】	生活デザイン演習		教材開発研究【中高選択】		
将来、「衣」に関連する分野でより専門的な職務に就くことを想定し、被服に関する内容を講義や実習などを通じて学び、繊維の特性等を理解し、被服と人間との関わりを学ぶ。	身体・生理		人体機能学	人間工学		保育学(実習及び家庭看護学を含む)【中高必修】	公衆衛生学		
	生活材料・被服科学	生活材料学【中高選択】	生活科学基礎実験	被服管理学【中高必修】		被服衛生学	被服環境生理学実験		
被服デザイン科学コース科目	アパレル商品		繊維材料学	被服科学実験【中高選択】					
豊かで創造的なライフスタイルの提案を目指して、講義やプロジェクト活動を主体とした演習で理論的・実践的に学ぶ。	アパレルデザイン	ファッションデザイン論	ファッションデザイン実習			テキスタイルCAD演習	アパレルCAD演習		
	アパレル造形		アパレル造形学【中高必修】	【前期又は後期】基礎アパレル造形演習【中高必修】		アパレル造形演習			
暮らしの基盤となる住空間について、インテリアデザインからまちづくりまで、人の生活と空間の関わりについて、理論と実践の両方から学ぶ。	生活文化	食生活文化論		衣生活文化論		和装文化演習			
	生活プロデュースコース科目	住生活文化論【中高選択】							
豊かで創造的なライフスタイルの提案を目指して、講義やプロジェクト活動を主体とした演習で理論的・実践的に学ぶ。	生活経営		生活経営学【中高必修】	生活経済学【中高必修】	家族関係学【中高必修】		ライフスタイル論	生活福祉論	
	社会と環境				産業史		生活環境学【中高選択】		
プロジェクト	プロジェクト			社会調査法					
	住居学		基礎製図演習	住居計画学(製図を含む)【中高必修】		住空間材料学			
インテリアデザイン	インテリアデザイン			住空間設計実習					
	インテリアデザイン			インテリアデザイン論	インテリアデザイン実習	インテリアCAD入門	インテリア産業論		
都市デザイン					都市デザイン論		都市デザイン演習		
住環境学					福祉住環境学【中高必修】	室内環境学	室内環境学実験		

赤字：必修(ただし、衣生活文化論は被服デザイン科学コースは必修、住生活文化論は住空間コース必修)

黒字：専門共通科目の黒字の科目は選択科目、コース科目の黒字は選択必修科目

ディプロマ・ポリシー

【知識・技能】
 1. 生活の質の向上と人類の福祉に貢献するための家政学の目的と意義を理解している。
 2. 家政学全般についての基本的知識と理解の上に立ち、被服、住居、生活プロデュースの各領域についての専門的知識・技能を持っている。
 3. 人文科学、社会科学、自然科学、情報処理等の基礎的な知識をもち、生活に関する問題解決のために活かすことができる。

【思考力・判断力・表現力等】
 1. 社会全体の発展やグローバルな問題について、生活に基盤を置く地道な視点で考察することができる。
 2. 社会の問題を発見し、科学的な知識および専門的スキルにより解決に必要な情報を収集・整理・分析する能力を持っている。
 3. 個人、家族、コミュニティ、福祉の視点から、より質の高い生活のありようを提案するためのコミュニケーション能力を持っている。

【主体性・多様性・協働性】
 1. 社会変化に追従して受動的になりがちな生活の問題点を指摘し、個人や家族の価値を堅持し、主体的で創造的な生活の実現を目指す意欲や実践力がある。
 2. よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働できる。
 3. 責任ある消費者市民として環境問題や人権問題に配慮した消費者行動ができ、啓発活動や企業活動に参画することができる。